

業務説明資料

本説明書に記載した内容には、現在検討中のものも含まれるため、本プロポーザルのみの設定条件とし、将来の業務実施の条件となるものではありません。

1 件名

ブルーライン案内表示器設備構築業務委託

2 履行期限

契約締結日から令和10年3月31日まで

3 履行場所

総合司令所（住所等詳細は契約後に開示）ほか（別紙1 設備仕様書 参照）

4 業務目的および概要

案内表示器は、各駅のコンコースやホームに設置されている旅客案内設備で、列車の行先や発車時刻を表示したり、列車の接近表示をするほか、列車の遅延情報や任意の案内文章などを表示する旅客案内設備です。

現在稼働中のブルーライン用案内表示器は、平成17年度から順次設置を進め、全駅のコンコースのほか、主要駅のホームに設置されました。その後、快速運転の開始に伴い、平成26年度には、それまで未設置であった箇所にも設置を行い、すべてのコンコース・ホームへの設置が完了しました。

初期に設置した表示器は、令和7年度で20年が経過し、機器の老朽化が進んでいます。

また、既設の表示器は、ドットマトリクスLEDパネルを使用しており、表示能力としては、赤・緑・橙の3色の表示色と決められたサイズの文字情報のみに限られているため、表示できる情報の量や質、ユニバーサルデザインへの対応に制約があることが課題となっています。

本業務は、単に老朽化した機器を更新するだけでなく、表示される情報や画面の構成を改めて見直し、ユニバーサルデザインにも配慮することで、ブルーラインを利用されるお客様にとって、よりわかりやすい案内を実現します。

5 成果品

- (1) 中央装置 一式
- (2) 駅装置 17駅
- (3) 操作端末 4台
- (4) 完成図書 一式
- (5) その他、本業務において製作し委託者に引き渡されるもの

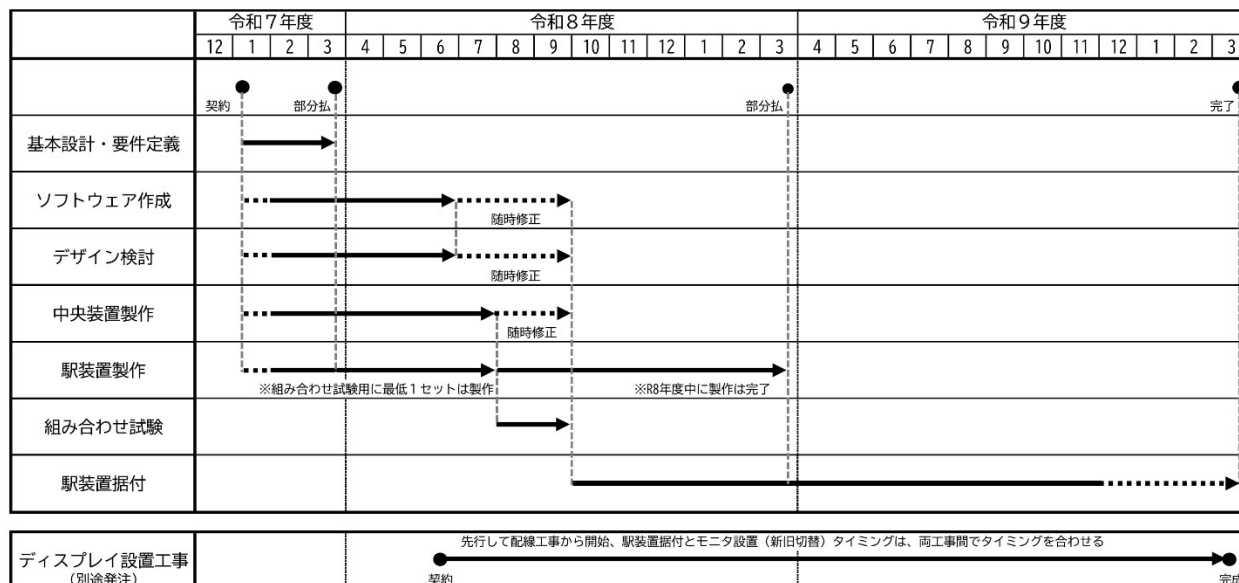
6 設備仕様

別紙1 設備仕様書 参照

7 スケジュール

全体スケジュールは、以下のように想定しています。

また、各年度末を目途に部分払いを行います。



8 その他

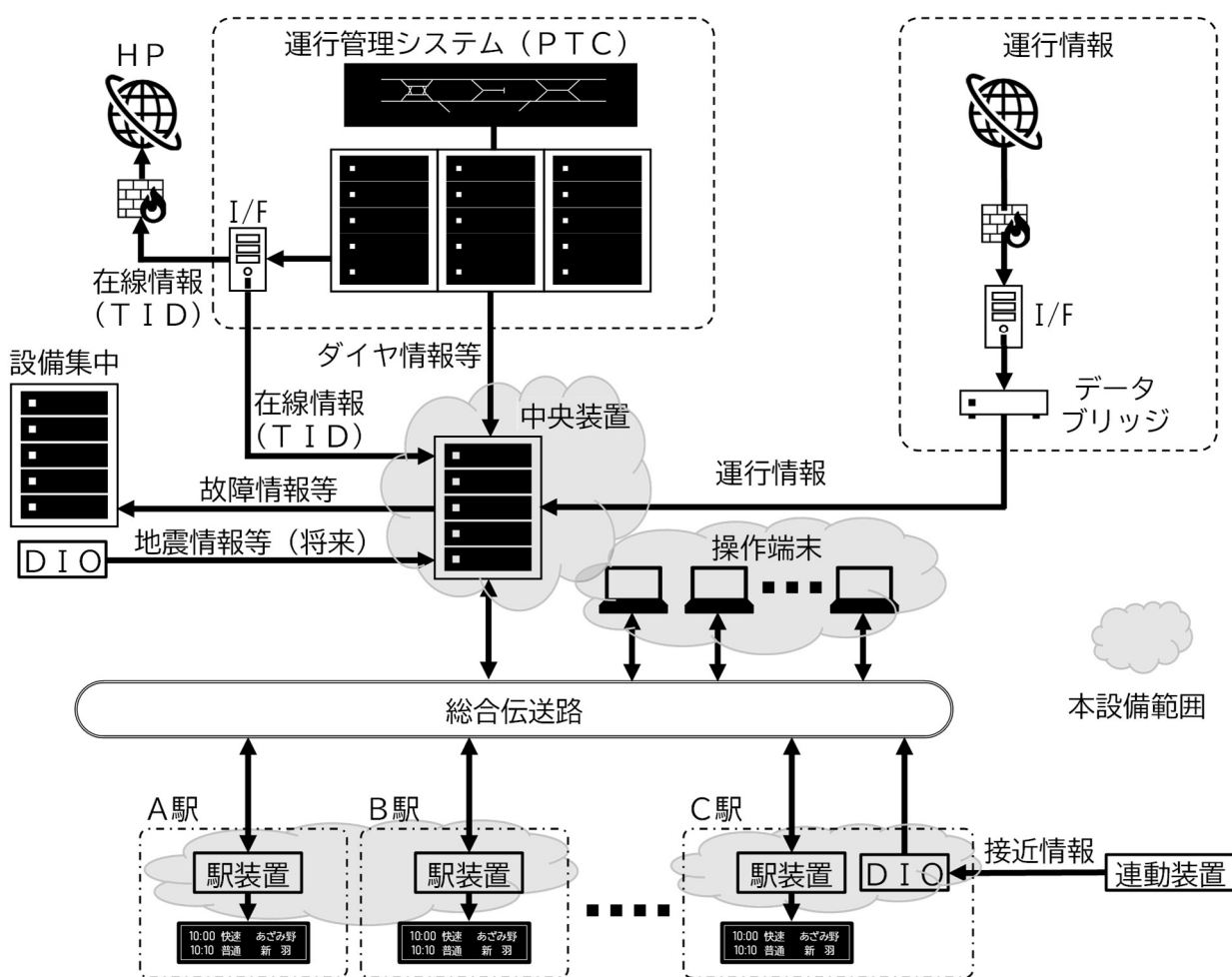
- 本業務の履行対象は業務説明資料に記載のとおりですが、今回対象外のブルーライン各駅についても本設備の一部として駅装置を追加設置する予定がありますので、中央装置の性能はそれを考慮したものとしてください。ただし、追加設置の契約を約束するものではありません。
- 本業務により製作された案内表示器の画面デザインなどの著作物の著作権は、履行完了および委託代金の支払い完了により委託者に移転するものとします。
- 本プロポーザルで特定された場合は、速やかに契約を締結し業務に着手するものとします。
- その他、業務説明資料に定めのない事項については、協議のうえ決定します。

ブルーライン案内表示器設備構築業務委託 設備仕様書

1 概要

案内表示器（以下、本設備）は、各駅のココンコースやホームに設置されている旅客案内設備で、列車の行先や発車時刻を表示したり、列車の接近表示をするほか、列車の遅延情報や任意の案内文章などを表示する旅客案内設備です。

本設備のシステム概要は、下図に示すように、総合司令所に設置する中央装置が運行管理システム（以下、PTC）や操作端末をはじめ、その他の関連する設備から受け取るデータを処理し、各駅に表示データを送信することで、表示装置に案内情報が表示されるものです。



システム概要図

2 システム構成

本設備は、以下の各装置によって構成されます。

(1) 中央装置

中央装置は総合司令所機器室に設置され、PTCや関連する設備から受信した情報をもとに、各駅で表示される情報を生成し、駅装置に送信します。

ア 主な機能

(ア) PTCから受信した情報をもとに、発車時刻、列車種別、行先、列車接近情報等の表示情

報の生成

- (イ) 連動装置からの情報をもとに、列車接近情報の生成（一部の駅）
- (ウ) 他システムから運行情報を受信し、運行情報表示の生成
- (エ) 在線表示システム（以下、T I D）から受信した情報をもとに、列車の在線表示の生成
- (オ) 接点入力により、緊急地震速報や津波警報などの緊急災害情報の生成
- (カ) 操作端末に入力された任意の案内文章をもとに、案内情報の生成
- (キ) 各駅の液晶ディスプレイ（別途工事にて設置）に対する、スタンバイ機能ON・OFFコマンドの送信
- (ク) システム内で発生した故障情報や動作状況のログ記録および設備集中への接点出力
- (ケ) その他、本設備の運用に必要な機能

イ 設置場所

総合司令所機器室

ウ 装置形態

構成機器類は堅牢なラック類に収納し、床面に強固に固定します。ラック類は汎用のサーバーラック等の使用も可能とします。

エ 時刻補正

当局が指定する総合伝送路上のNTPサーバとの同期

オ 冗長構成

中央装置に障害が発生した場合でも、表示を継続するために冗長化を図ることとします。具体的な冗長構成は、プロポーザルにおける提案としますが、以下の各項目に留意して提案してください。

- (ア) PTCおよび連動装置からの情報をもとに生成される情報の継続が最優先であること。
- (イ) 装置全体をウォームスタンバイとし、完全な無瞬断とするような重厚な機器構成は、信頼性が高くてランニングコストを増大させることが想定されるため、原則として採用しない。ただし、コスト低減と併せて提案する場合は、この限りではない。
- (ウ) ウォームスタンバイ・コールドスタンバイ・事後交換など、装置を構成する要素ごとに冗長化が適切に組み合わせられることで、信頼性とライフサイクルコストのバランスが良い装置であること。
- (エ) コールドスタンバイや事後交換による冗長構成部分であっても、予備系への切替操作や予備品への交換などは、直営作業により速やかに行えるものであること。
- (オ) 汎用性が低く特殊な機器を使用したり、専用設計となる要素が多い場合、将来の故障時等に修理や交換部品の確保が困難となるため、機器や技術の汎用性の高さも考慮してあること。
- (カ) 上記の項目が考慮され、費用対効果の高い冗長構成であること。

カ PTCから受信する情報

PTCから以下の情報を受信します。

詳細は、別紙2 PTCインターフェース仕様書を参照してください。

・制御データ（表示データ）

受信タイミング：状態変化時

受信内容：〔番線／コンコース〕〔送出先（駅）〕〔先発最終〕〔先発列種〕

〔先発番線〕〔先発行先〕〔先発遅延〕〔先発発車時刻〕〔次発最終〕

[次発列種] [次発番線] [次発行先] [次発遅延] [次発発車時刻]
 [接近] [先発遅延時分] [停車駅案内表示指示]
 [先着列車案内表示指示] [乗換案内表示指示]

・制御データ（全表示器消去データ）

受信タイミング：終業時

受信内容：[消去データ]

キ 連動装置から受信する情報

連動装置からの接点信号により以下の情報を受信します。

なお、連動装置の接点信号は駅での授受となるため、駅にD I O装置等を設置しI P変換を行い、総合伝送路を経由して中央装置で受信することを想定していますが、D I O機能を駅装置に統合して中央装置へ伝送するなど、詳細は規定しません。

(ア) 終端駅等で連動装置が接続される場合は、連動装置からの接近条件を基に、当駅接近表示を行います。但し通過／停車の判断はしません。

(イ) 上記の場合、連動装置からの接近条件とP T Cからの当駅接近情報の使い分けは協議により決定します。

ク 運行情報（既設なし）

他システムから、自社線運行情報や他社線からの振替輸送受託状況などの情報を受信します。

他システムから、定められた記憶領域（データブリッジ）に対して、定周期で運行情報等が記録されたファイルを保存します。本設備は、保存されたファイルを取り込み、記録された内容に応じた運行情報等を生成します。運行情報等がない場合にも、情報がないことが記録されたファイルが定周期で保存されています。定められた周期でファイルが保存されていない場合は、他システム側の不具合として、操作端末にアラートを出します。

情報送信元となる他システムの詳細は現在未定ですが、データブリッジに保存される運行情報ファイルは、悪意を持ったコードなどの侵入を防ぐため、プレーンテキストファイルやそれに準じた汎用的な平文データを予定しています。

なお、他システムからの運行情報ファイルが正常に受信できている間は、運行情報は自動的に表示されるものとしますが、他システム側の不具合やユーザーの意思で任意の案内を行う必要が生じた場合には、操作端末からの手動入力により運行情報などを表示します。

ケ T I Dから受信する情報（既設なし）

T I Dから、列車在線位置の情報を受信します。

詳細は、別紙3 在線表示システムインターフェース仕様書を参照してください。

コ 接点情報により受信する情報（既設なし）

他設備からの接点信号により、緊急地震速報、津波警報、その他将来対応用として2点程度の情報を受信します。

ただし、本情報は当初は表示せず、準備工事とします。

サ 各駅の液晶ディスプレイに送信する情報（既設なし）

液晶ディスプレイの電源管理を行うため、中央装置から総合伝送路に接続されたディスプレイのスタンバイ機能ON・OFFコマンドを送信します。各液晶ディスプレイは総合伝送路にイーサネット接続され、固定I Pアドレスが割り振られています。

制御コマンドは、イーサネットによるパナソニック系・NEC系・シャープ系・ソニー系をあ

らかじめ実装し、操作端末からの設定によって、対象のディスプレイに応じた選択が可能であるものとします。また、将来、別体系のコマンドへの対応が必要となった場合に、可能な限り容易に追加が可能であるものとします。

液晶ディスプレイの電源管理は、液晶ディスプレイ 1 台ごと（固定 I P 設定）に行えることとし、操作端末からの操作でユーザーが任意のスケジュール設定や手動の ON・OFF ができるものとします。

シ 設備集中へ送信する情報

接点信号により、以下の情報を出力します。

(ア) 重故障

表示装置が表示不能となる重篤な故障

(例)

- ・電源断
- ・中央装置異常（表示が継続不能なもの）
- ・駅装置全数異常
- ・PTC 通信インタフェース異常

(イ) 軽故障

表示は継続されるが構成機器等に異常が生じ、対処が必要な故障

(例)

- ・中央装置異常（表示は継続できるもの）
- ・駅装置異常

(ウ) 将来対応用接点 2 点程度

当初は定義する情報はありますが、将来対応用として 2 点以上の出力用接点を実装するものとします。

(2) 駅装置

駅装置は各駅に設置され、中央装置から送信された案内情報を、汎用映像信号（HDMI または DVI-D）として出力します。駅装置から出力された映像は、別途設置される液晶ディスプレイに表示されます。

本業務の履行範囲は、駅装置設置および汎用映像信号の出力確認までとし、液晶ディスプレイ設置・配線工事や複数の液晶ディスプレイへの分配器の設置などは別途工事の範囲です。

ア 機能

中央装置からの情報をもとに、表示装置へ送信する映像の生成

イ 設置場所

各駅通信機器室・信号機器室等

ウ 装置形態

構成機器類は堅牢なラック又は壁掛けの収容箱等に収納し、床面や壁面に強固に固定します。ラック又は収容箱等は、汎用のサーバーラックや金属製キャビネットの使用も可能とします。ただし、設置場所はスペースが限られており、19 インチラックの設置が困難な場合があります。ラックや収容箱は必要最低限の大きさとしてください。

エ 時刻補正

当局が指定する NTP サーバとの同期

オ 特殊解像度への対応

出力解像度は1920×1080を基本とします。接続される液晶ディスプレイの解像度が異なる場合はディスプレイ側でトリミングを行うこととし、駅装置からは常に基本解像度を出力するものとします。（基本解像度に満たない領域を除いた範囲に表示コンテンツを作成します）

(3) 操作端末

操作端末は総合司令所のほか電気区や本庁の任意の場所に設置され、任意の案内文章や運行情報を入力するほか、案内表示モード切替・システム状態表示・システムのログ表示・各駅の表示内容モニタ・その他ユーザーが行う本設備に関する手動操作に関する入力機能を有します。

案内文章や運行情報など、手動入力した内容が表示装置に表示されるものについては、表示される内容を事前にプレビューしてから送出するものとします。

なお、運行情報入力画面のユーザーインターフェースは、別紙4 運行情報等入力ユーザーインターフェース仕様書を参照してください。

ア 設置場所

総合司令所、本庁、上永谷電気区、新羽電気区、その他総合伝送路に接続可能な任意の場所

イ 装置形態

ノートパソコンを基本とします。アプリケーションの形態は、専用アプリケーションのほか汎用ウェブブラウザから操作するものも可とします。総合司令所、本庁、上永谷電気区、新羽電気区については、本業務にてパソコンを含めて納入してください。専用アプリケーションを要する場合は、任意のパソコンにアプリケーションをインストールするための、インストール用メディアを納入してください。

ウ 時刻補正

当局が指定するNTPサーバとの同期

エ 機能

本設備に必要な操作機能等を協議のうえ決定し実装します。以下に、既設設備の操作端末が有する主な機能を参考に記載します。

(ア) 案内モード設定

(イ) 緊急案内（運行情報）表示設定

(ウ) 案内文章作成（スケジュール案内文章作成、緊急案内文章作成）

(エ) 案内文章表示スケジュール設定

(オ) 機器状態モニタ情報

(カ) 表示器モニタ情報

(キ) ログ操作機能

(ク) その他、本設備に関する操作・設定機能

(4) 総合伝送路（既存設備）

本設備を構成する各装置間の通信に利用できるネットワークです。TCP/IPによって通信を行います。多重化はされていません。

なお、本ネットワークには地下鉄の営業に必要な他の設備も多数接続されており、監視カメラなどの比較的データ量の大きな設備との共有設備であるため、トラフィックを抑えた通信を行ってください。

特に、表示内容を動画データとして駅装置へ丸ごとストリーミング配信するような仕様は認めません。

3 案内モード

既設設備に実装されている案内モードは搭載可能としたうえで、具体的な案内モードの種別や仕様については、本仕様書で定めるハードウェア仕様や他設備とのインターフェース仕様の範囲で生成可能な表示を協議のうえ決定します。

既設設備の案内モードの種類と概要は、別紙 5 既設案内モード仕様書を参照してください。

4 表示内容

表示内容の分類として、ホーム用およびコンコース用のそれぞれ上り線用と下り線用の 4 種類に加えて、上下線の表示を 1 台の表示装置にまとめて表示するものがあります。

既設設備に実装されている表示機能については搭載可能であることとします。

既設設備の表示機能については、別紙 6 既設表示機能仕様書を参照してください。

具体的な表示内容については、本仕様書で定めるハードウェア仕様の範囲で、PTC やその他の接続される装置から受信する情報の組み合わせで構成されるものを、委託者と受託者で協議のうえ決定します。

なお、駅装置に接続される液晶ディスプレイは、設置環境（主に天井高の制限）に応じて、一般的なアスペクト比 16 : 9 のほか、バータイプ（アスペクト比 4 : 1）も採用されるため、どちらのアスペクト比にも対応できる表示パターンを用意し、駅装置ごとに任意に選択できるようにします。

5 ユニバーサルデザイン対応

表示画面は、ユニバーサルデザインに十分配慮されたものを、協議のうえ決定します。

配色については、人間の色覚の多様性に対応し、より多くの人に利用しやすい配色を行った「カラーユニバーサルデザイン（CUD）」の概念を取り入れ、CUD 認証を取得します。認証取得にかかる経費は本業務に含みます。

文字情報については、文字サイズに配慮するとともに、ユニバーサルデザインフォントの採用を基本とします。フォントのライセンスは、買い切り型のものを本業務において導入することを基本としますが、デザイン協議の結果、委託者が指定したフォントに買い切り型のライセンスがない場合などは、委託者による手配を行います。

その他、デザインについては、より多くのお客様にとって見やすいデザインを、受託者の豊富な経験と知見を取り入れながら、委託者と受託者が共に協議したうえで決定します。

6 保守について

稼働開始後の設備の保守については、直営による作業が可能であることを原則とし、日常的に保守が必要な要素が少なく、障害発生時は迅速に復旧が可能であることとします。

本業務の範囲において、保守に必要な予備品を納入してください。予備品とは、設備の稼働中に、経年劣化や偶発的要因によって発生する故障の復旧に必要となる部品や機器を指します。数量の目安として、中央装置に係るものは 1 組分、駅装置に係るものは 2 組分とし、詳細は協議によって決定します。

なお、定期点検の外注化やオンコール保守の要否などは、契約後に協議することとしますが、それらの契約の有無によらず、障害発生時に迅速に対応できる体制を整えることとします。

7 その他

(1) 作業時間

本業務に係る各種作業は、原則として昼間時間帯に行うことが可能です。ただし、P T Cのネットワークへの接続作業など、列車の運行に影響を及ぼす恐れのある作業は、営業終了後に行うこととします。

(2) 表示確認用ディスプレイ

液晶ディスプレイの設置は別途工事にて行いますが、本業務における表示画面の検討・確認や駅装置からの映像出力の確認等に使用するため、標準アスペクト比とバータイプの液晶ディスプレイ（40インチ級）を納入し、業務完了後は予備品用として納めてください。

(3) 動作確認

本業務の責任において動作確認を行う範囲は、中央装置で生成された案内情報が駅装置から映像信号として出力される部分までとします。駅装置から出力された映像信号が液晶ディスプレイに表示されることの確認は、別途工事の範囲としますが、別途工事において映像の表示に不具合が生じた際、原因の切り分け調査等には誠意をもって対応するものとします。

(4) 履行対象駅および表示装置種別

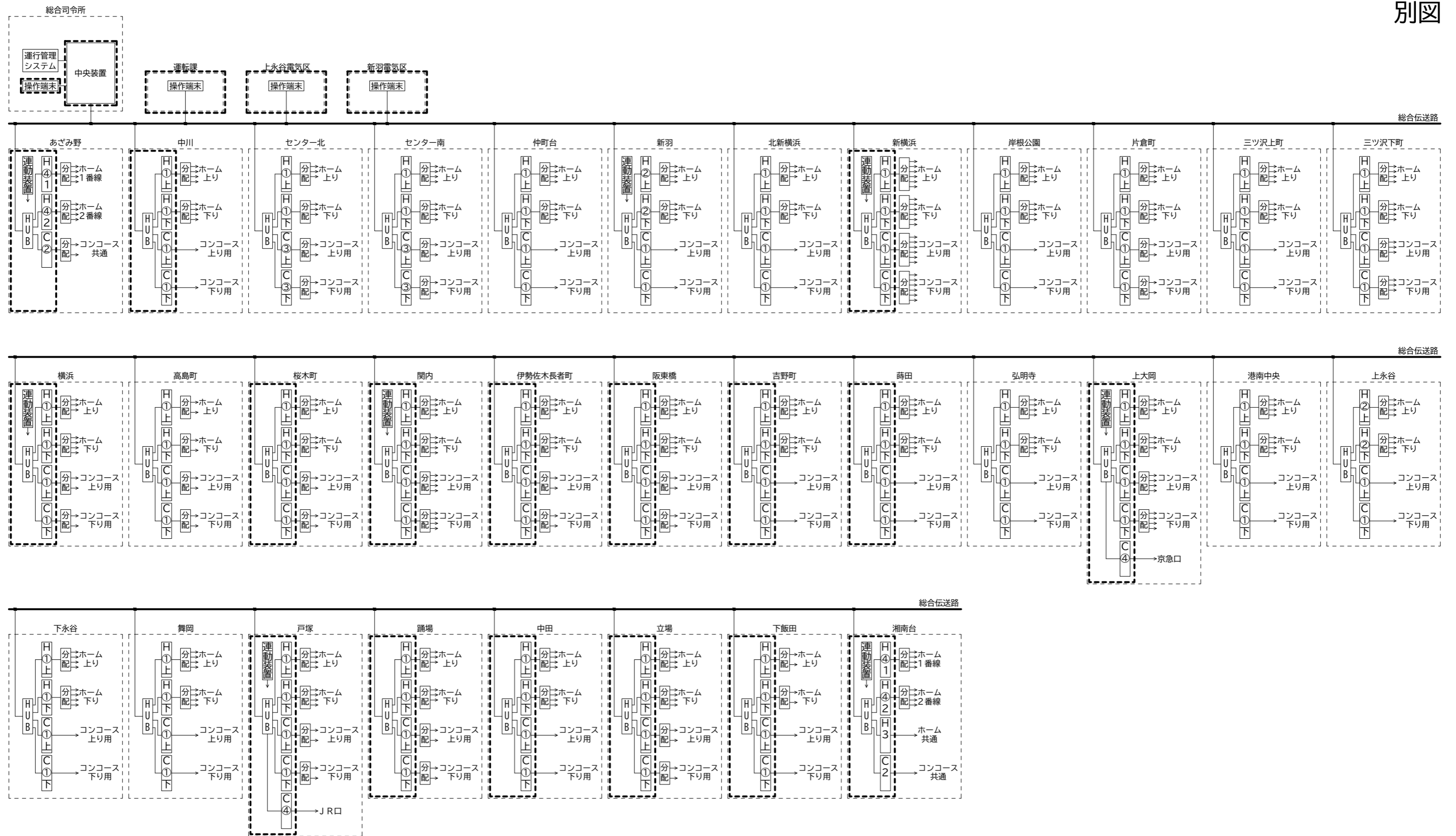
本業務における履行対象駅及び各駅に設置される表示装置の種別は、別図のとおりです。

(5) 多言語表記について

多言語表記について、英語表示は必須とします。その他の言語については、表示内容の検討において協議によって決定します。

それぞれの日本語に対応する具体的な外国語の表記については、その言語の母語話者に自然に通用するものとして設計し、委託者の指定する横浜市役所内担当部署等の確認を経るものとします。

別圖

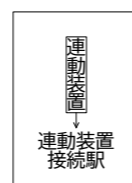
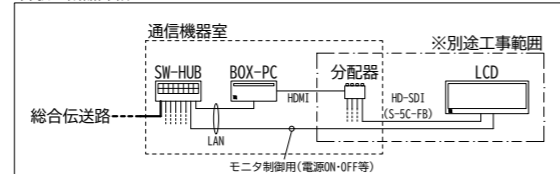


駅装置 凡例


- H① 上,下:ホーム標準型(上り,下り)
H② 上,下:ホーム2面4線型(上り,下り)
H③ :ホーム終端駅型(両番線共通)
H④ 1,2:ホーム終端駅型(1番線,2番線)

- C① 上,下:コンコース標準型(上り,下り)
C② :コンコース終端駅型(両番線共通)
C③ 上,下:コンコースセンター南北型(上り,下り)
C④ :乗換口型(上下線共通)

各駅 機器詳細



履行对象箇所

記 事		 横浜市交通局		委託名	ブルーライン案内表示器設備構築業務委託	設計 年月	-	図面 番号	-
			技術管理部 電気課	図面名	全体構成図および履行対象箇所	縮尺	N/S		

※本紙は提案資格が認められた事業者へ貸与します

※本紙は提案資格が認められた事業者へ貸与します

運行情報等入力ユーザーインターフェース仕様書

操作端末から入力する運行情報等のユーザーインターフェースについて定めます。

なお、本仕様書に記載の内容は参考であり、実際の製作仕様は、契約後に協議により決定しますが、本仕様書どおりの製作が可能であることとします。

1 概要

自社線に遅延や運転見合わせなどの運行情報が発生した際や、他社線からの振替輸送を受託した際に、案内表示器に表示させる情報を、操作端末から入力します。

運行情報は、事由が発生してから速やかに正確な情報を表示させる必要があるため、入力画面のユーザーインターフェースは使い勝手のよいものが求められます。

本仕様書の内容を踏まえた上で、受託者の経験や知見を取り入れた製作仕様を協議のうえで決定します。

2 基本仕様

(1) 端末形態

ノート型パソコンを基本とし、15型程度の画面サイズでも無理なく操作できるものとします

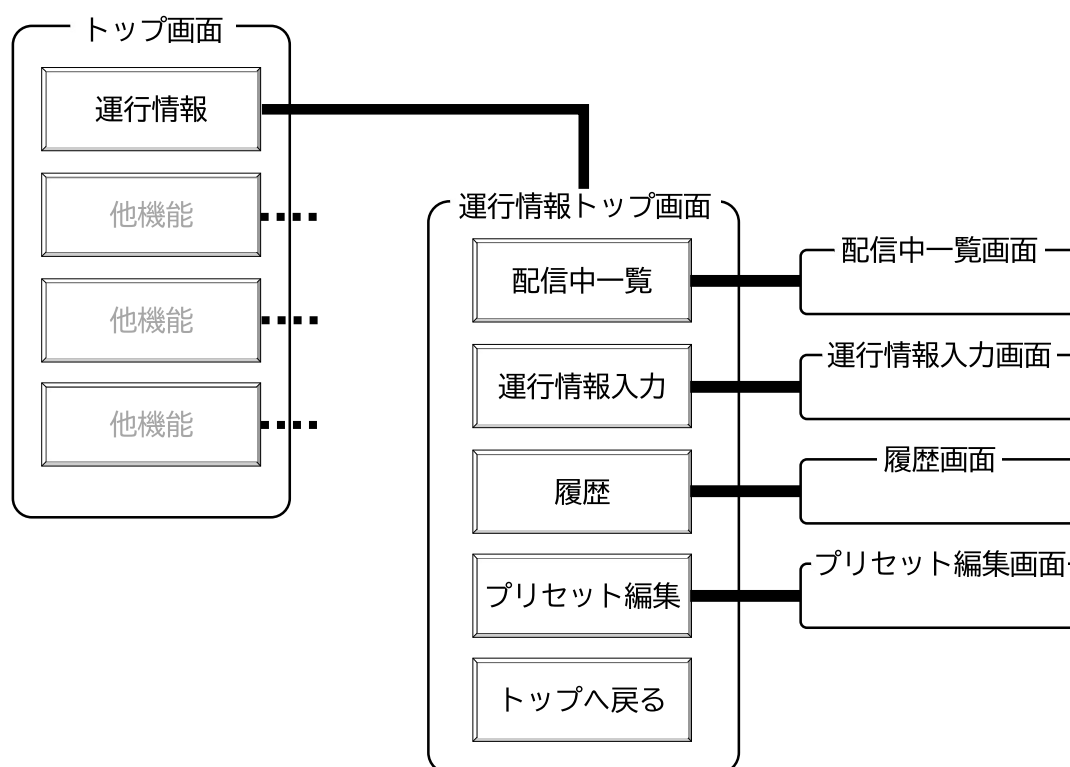
(2) 入力デバイス

マウスおよびキーボードの使用を基本とし、主たる操作はマウスでできるものとします

タッチパネル操作については、マウスとの併用が可能であれば、付加できるものとします

3 画面遷移

運行情報入力画面に関連する画面遷移は、以下のものを参考に協議のうえで決定します。



4 画面仕様

運行情報の入力に関連する画面仕様は、以下のものを参考に協議のうえで決定します。

(1) 配信中一覧

配信中の運行情報を一覧表示し、配信の停止や配信中の情報の修正入力画面への移動を行います。

(2) 運行情報入力

これから配信する運行情報の編集を行います。配信中の情報を修正する際は、配信中一覧画面で対象の情報を選択し、修正ボタンを押すことで本画面に移動します。

画面構成は以下の参考画面のように、使用頻度の高い要素は1画面に収め、迅速な入力ができるようにします。

The screenshot shows a web-based interface for inputting train operation information. The layout is as follows:

- 路線 (Route):** Includes a dropdown for 'ブルーライン' (Blue Line) with '確定' (Confirm) and '解除' (Cancel) buttons. Below it are buttons for 'JR横浜線' and '東急線'.
- 発生時刻 (Occurrence Time):** A time selection field showing '20時30分' with '確定' and '解除' buttons.
- 区間 (Section):** A dropdown for '湘南台' with '確定' and '解除' buttons. To the right is a table for station pairs:

全線	湘南台
下飯田	立場
中田	踊場
戸塚	舞岡
- 状態 (Status):** A dropdown for '折り返し運転' (Return Service) with '確定' and '解除' buttons. To the right is a table for service types:

運転見合わせ	ダイヤ乱れ
折り返し運転	駅入場規制あり
- 原因 (Cause):** A dropdown for '安全確認' (Safety Confirmation) with '確定' and '解除' buttons. To the right is a table for incident types:

人身事故	安全確認
異音確認	ポイント故障
- 遅れ時間 (Delay Time):** A field showing '--分' with '確定' and '解除' buttons.
- 選択状況 (Selection Status):** A section on the right with a text area showing 'ブルーラインは 20時30分に発生した 安全確認の影響で 湘南台駅~戸塚駅の間で 折り返し運転をおこなっております'. Below it are buttons for '任意入力' (Optional Input), '日本語のみ' (Japanese Only), and '確定'/'解除'.
- アイコン (Icon):** A section with three icon buttons: a green circle, a yellow triangle, and a red X, followed by '確定' and '解除' buttons.
- Bottom Bar:** Contains 'プレビュー' (Preview) and 'メニュー' (Menu) buttons.

入力が必要な要素は以下の項目を基本に協議のうえ決定します。

【路線】【発生時刻・再開時刻】【区間】【方向】【状況】【原因】
【遅れ時間】【アイコン】【送出対象駅・方面】

(3) 履歴

過去に配信した運行情報を一覧で表示します。履歴の中から選択した情報を再利用編集して、新たに配信を行えるものとします。

(4) プリセット編集

路線名称・状態・原因・追加情報など、あらかじめプリセットしておく内容の編集を行います。また、各日本語に対応する英語の登録も行います。

既設案内モード仕様書

既設設備の案内モードについて示します。

中央装置とPTCの状態と案内状態を以下の表に示します。

状態	中央装置	PTC	表示器
自動	正常	正常	正常
簡易	正常	異常	正常
終業	正常	正常	正常（無表示）
異常1	異常	正常	正常
異常2	正常	正常	異常（全数異常）

1 案内モードの変更要因

案内モードの変更要因が発生した場合、新たなモードに変更します。

(1) 案内モードの変更要因

ア 操作端末からの指示

(ア) 自動モード

(イ) 簡易モード

イ PTCからの指示

(ア) 自動モード（表示データ）

(イ) 簡易モード（異常による判断）

(ウ) 終業モード（全表示器消去データ）

(2) 状態遷移表

イベント 状態		電源ON または リセット	端末からの指示		PTCからの情報				異常1	異常2	異常修復 (手動)	異常修復 (自動)
			簡易	自動	表示 データ	PTC 異常	PTC 復旧	全表示器 消去				
①	アイドル	各種 初期設定 →②										
②	自動		→③			→③		→④	→⑤	→⑥		
③	簡易			→②			→②		→⑤	→⑥		
④	終業		→③	→②	→②	→③			→⑤			
⑤	異常1										システム リセット →①	→②
⑥	異常2										システム リセット →①	→②

2 案内モードの種類と概要

(1) 案内モードの種類を示します。

ア 自動モード

- (ア) P T C正常時に、本モードで動作します。
- (イ) P T Cからの受信情報に従って動作します。
- (ウ) 各種タイミング情報は、P T Cからの情報に従います。

イ 簡易モード

- (ア) P T C異常時、本モードで動作します。
- (イ) 操作端末から「簡易モード」を指示された時、本モードで動作します。
- (ウ) 「調整中」表示を行います。
- (エ) ただし、「当駅接近表示」、操作端末からの「緊急表示」は行います。

ウ 終業モード

P T Cから全表示器消去がきたら終業モードで動作します。

エ 異常1（中央装置異常）

- (ア) 設備集中に対して故障出力を行います。
- (イ) 案内表示は行いません。但し、連動装置が接続された表示器の場合、当駅接近表示は表示器側の機能としてこれを行います。

オ 異常2（表示器全数異常）

- (ア) 伝送路異常はこのモードに該当します。
- (イ) 設備集中に対して故障出力を行います。
- (ウ) 案内表示は行いません。但し、連動装置が接続された表示器の場合、当駅接近表示は表示器側の機能としてこれを行います。

(2) 案内モードと案内表示の関係および概要を示します。

営業時間外であっても一般案内表示を行います。

		案内モード				
		自動	簡易	終業	異常1	異常2
案内表示	列車案内	○	調整中	無表示	調整中	調整中
	当駅接近案内	○	△	△	△	△
	一般案内	○	×	×	×	×
	緊急案内	○	○	×	×	×

3 自動モードの動作

案内表示の詳細は、別紙6 既設表示機能仕様書に示します。

(1) 列車案内

P T Cからの表示データを基に、当該番線の先発・次発の列車情報を表示器に列車案内として表示します。

列車案内は発車時刻、発車順序、種別、行先、番線を表示します。

(2) 接近案内

P T Cから「接近表示条件（当駅接近）」が入力された時、当該番線表示器に接近案内を表示します。

但し、終端駅の場合は連動条件で最接近表示を行います。

当駅接近案内表示は、「当駅接近表示条件」が入力された時から、当該情報が解除される時まで連続して行います。

(3) 一般案内

操作端末で入力した「一般文章」を、「一般案内文章表示スケジュール」に従い表示します。

(4) 緊急案内

操作端末で入力した「緊急案内文章」を、「緊急案内表示指示」に従い表示します。

緊急案内文章の種類は下記の通りです。

ア 自社ダイヤあり緊急文章

イ 自社ダイヤなし緊急文章

ウ 他社緊急文章

エ グリーンライン情報（自社ダイヤあり緊急文章類似）

オ 文章番号選択（自社ダイヤあり緊急文章類似）

4 簡易モードの動作

(1) 表示器は、「調整中」を表示します。

(2) P T Cから「表示データ」を受信しても表示は行いません。

(3) 操作端末から、「緊急案内」が指示された場合は表示します。

(4) P T Cから「接近指示」、連動装置からの条件取得により、当駅接近案内を表示します。

5 終業モードの動作

P T Cから全表示器消去データが指示された時、終業モードで動作します。

終業モード中、P T Cが異常となった場合、簡易モードとなります。

新たにモード変更要因が発生するまで（P T Cから表示データが指示された場合等）終業モードとなります。

(1) 表示器は「無表示」となります。

(2) P T Cから「表示データ」を受信した場合表示を行います（自動モードに切替る）。

(3) P T Cから「接近指示」、連動装置からの条件取得により、当駅接近案内を表示します。

6 異常1の動作

R A Sから異常が出力された時、もしくは電源断など中央装置が故障した時に、この状態となります。

(1) 表示器は異常発生から一定時間経過後「調整中」となります。

(2) 連動装置が接続された表示器は、当駅接近案内は表示します。

但し、異常発生から一定時間経過後となります。

7 異常2の動作

表示器が全数異常となった時この状態になります。

- (1) 表示器は異常発生から一定時間経過後「調整中」となります。
- (2) 連動装置が接続された表示器は、当駅接近案内は表示します。
但し、異常発生から一定時間経過後となります。

既設表示機能仕様書

P T Cからの情報をもとに、表示器に表示する内容を示します。

また、操作端末から指示された一般案内・緊急案内等の表示方法を示します。

1 表示レイアウト

(1) ホーム

ア 1 2ユニット表示器（あざみ野、湘南台他）※以降駅名省略

通常、上段（先発表示段）に「先発列車案内」、下段（次発表示段）に「次発列車案内」「列車接近表示」等を表示します。以下に、通常時の表示器の表示レイアウトを示します。

	先発 次発	種別 最終	発車時刻	スペース	行先
	<2>	<2>	<2.5>	<0.5>	<5>
上段(先発表示段)	先発	普通	10:10	横	浜
下段(次発表示段)	次発	最終	10:15	新	横 浜

イ 1 4ユニット表示器（新羽、上永谷、湘南台）

通常、上段（先発表示段）に「先発列車案内」、下段（次発表示段）に「次発列車案内」「列車接近表示」等を表示します。同一方向に異なる番線から出発する場合は、矢印で番線を指示します。以下に、通常時の表示器の表示レイアウトを示します。

	矢印	先発 次発	種別 最終	発車時刻	スペース	行先	矢印
	<1>	<2>	<2>	<2.5>	<0.5>	<5>	<1>
上段(先発表示段)	◀	先発	普通	10:10	横	浜	
下段(次発表示段)		次発	最終	10:15	新	横 浜	▶

ウ 非営業列車表示について以下に示します。

(ア) 当駅止まり列車を表示

<1 2ユニットの場合>

先発 次発	種別 最終	発車時刻	スペース	行先
<2>	<2>	<2.5>	<0.5>	<5>
				当駅止まり

※ 先発、次発表示は行いません。最終列車の場合、種別最終エリアに「最終」表示を行います。

< 14ユニットの場合 >

矢印	先発 次発	種別 最終	発車時刻	スペース	行先	矢印
<1>	2	2	2.5	0.5	5	>1>
←					当駅止まり	

※ 先発、次発表示は行いません。最終列車の場合、種別最終エリアに「最終」表示を行います。

(イ) 回送列車を表示（停車駅）

< 12ユニットの場合 >

先発 次発	種別 最終	発車時刻	スペース	行先
2	2	2.5	0.5	5
先発				回送

※ 先発、次発表示を行います。

※ 最終列車の場合でも種別最終エリアに「最終」表示は行いません。

< 14ユニットの場合 >

矢印	先発 次発	種別 最終	発車時刻	スペース	行先	矢印
<1>	2	2	2.5	0.5	5	>1>
←	先発				回送	

※ 先発、次発表示を行います。

※ 最終列車の場合でも種別最終エリアに「最終」表示は行いません。

※ 上記(ア)、(イ)以外の非営業列車も同等の表示方法とします。

※ 通過駅の場合は行先エリア（上記例回送表示）に通過を表示します。

エ 営業列車表示について以下に示します。

(ア) 最終列車の発車時刻、最終、行先を表示

< 1 2 ユニットの場合 >

先発 次発	種別 最終	発車時刻	スペース	行先
2	2	2.5	0.5	5
先	発	最終	10:10	新 横 浜

< 1 4 ユニットの場合 >

矢印	先発 次発	種別 最終	発車時刻	スペース	行先	矢印
1	2	2	2.5	0.5	5	1
←	先	発	最終	10:10	横 浜	

(イ) 臨時列車の発車時刻、種別、行先を表示

< 1 2 ユニットの場合 >

先発 次発	種別 最終	発車時刻	スペース	行先
2	2	2.5	0.5	5
先	発	臨時	10:10	新 横 浜

< 1 4 ユニットの場合 >

矢印	先発 次発	種別 最終	発車時刻	スペース	行先	矢印
1	2	2	2.5	0.5	5	1
←	先	発	臨時	10:10	横 浜	

(2) コンコース

ア 通常、上段（先発表示段）に「先発列車案内」、下段（次発表示段）に「次発列車案内」等表示します。接近表示は行いません。非営業列車表示はP T Cから情報を送信されれば、表示します。（運用上、非営業列車の情報はP T Cから送信されません。）

イ 以下に、通常時の表示器の表示レイアウトを示します。

先発 次発	のりば	種別 最終	発車時刻	スペース	行先
2	2	2	2.5	0.5	5
先発	1番線	普通	10:10	横	浜
次発	2番線	普通	10:15	新	横 浜

先発 次発	種別 最終	発車時刻	スペース	行先
2	2	2.5	0.5	5
先発	普通	10:10	戸	塚
次発	普通	10:12	上	大 岡

先発 次発	発車時刻	スペース	行先
2	2.5	0.5	5
普通	10:10	横	浜
快速	10:15	新	横 浜

ウ 以下に、表示器の各表示レイアウトを示します。

(ア) 発車時刻、行先を表示

先発 次発	のりば	種別 最終	発車時刻	スペース	行先
2	2	2	2.5	0.5	5
先発	1番線	普通	10:10	横	浜

先発 次発	種別 最終	発車時刻	スペース	行先
2	2	2.5	0.5	5
先発	普通	10:10	戸	塚

先発 次発	発車時刻	スペース	行先
2	2.5	0.5	5
普通	10:10	横	浜
快速	10:15	新	横 浜

(イ) 発車時刻、最終、行先を表示

先発 次発	のりば	種別 最終	発車時刻	スペース	行先
2	2	2	2.5	0.5	5
先発	1番線	最終	10:10	横	浜

先発 次発	種別 最終	発車時刻	スペース	行先
2	2	2.5	0.5	5
先発	最終	10:10	戸	塚

先発 次発	発車時刻	スペース	行先
2	2.5	0.5	5
普通	10:10	横	浜
最終	10:15	新	横 浜

(ウ) 発車時刻、種別、行先を表示

先発 次発	のりば	種別 最終	発車時刻	スペース	行先
2	2	2	2.5	0.5	5
先発	1番線	快速	10:10	横	浜

先発 次発	種別 最終	発車時刻	スペース	行先
2	2	2.5	0.5	5
先発	快速	10:10		戸 塚

先発 次発	発車時刻	スペース	行先
2	2.5	0.5	5
普通	10:10		横 浜
快速	10:15		新 横 浜

(3) 京急・JR口（上大岡駅・戸塚駅両方面コンコース）

ア 通常、上段（先発表示段）に「先発列車案内」、下段（次発表示段）に「次発列車案内」を表示します。接近表示及び非客扱いの表示はしません。

イ 以下に、通常時の表示器の表示レイアウトを示します。

番線	種別 最終	発車時刻	スペース	行先
2	2	2.5	0.5	5
1番線	普通	10:10		湘 南 台
2番線	普通	10:15		あ ざ み 野

ウ 以下に、表示器の各表示レイアウトを示します。

(ア) 発車時刻、行先を表示

番線	種別 最終	発車時刻	スペース	行先
2	2	2.5	0.5	5
1番線	普通	10:10		新 横 浜

(イ) 発車時刻、最終、行先を表示

番線	種別 最終	発車時刻	スペース	行先
2	2	2.5	0.5	5
1番線	最終	10:10		新 横 浜

(ウ) 発車時刻、種別、行先を表示

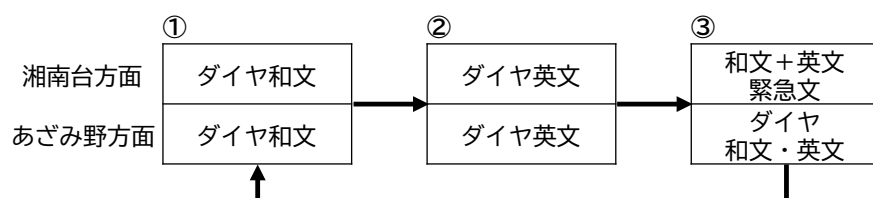
番線	種別 最終	発車時刻	スペース	行先
2	2	2.5	0.5	5
1番線	快速	10:10		新 横 浜

エ 自社緊急案内のみ表示フロー

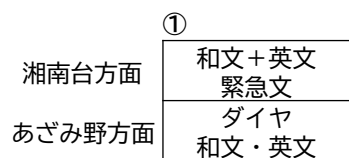
(ア) 湘南台方面 or あざみ野方面

※ 該当方面に緊急文が表示されます。

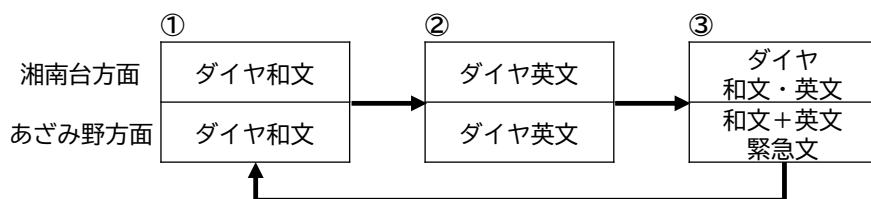
a 湘南台方面ダイヤ有り



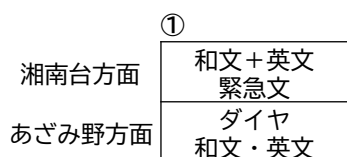
b 湘南台方面ダイヤ無し



c あざみ野方面ダイヤ有り



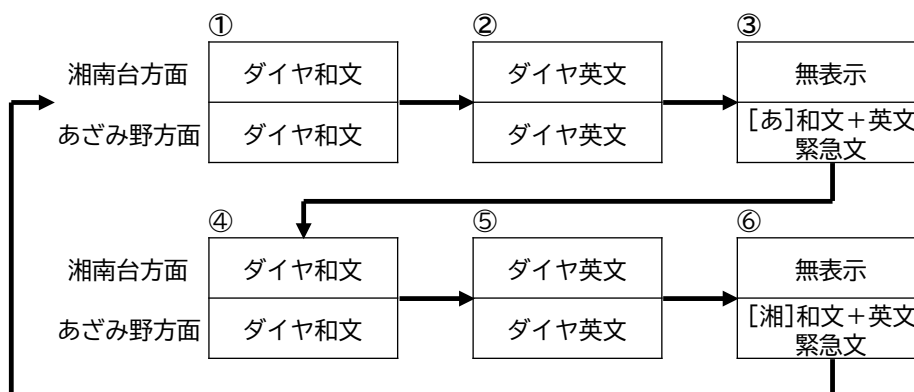
d あざみ野方面ダイヤ無し



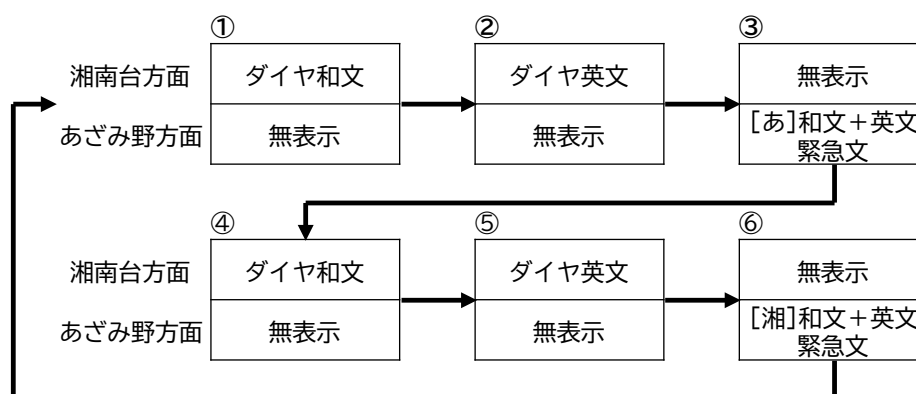
(イ) 湘南台方面 and あざみ野方面

※ 両方面に対し緊急案内を指示した場合、1 段目は無表示、2 段目に緊急文表示となります。

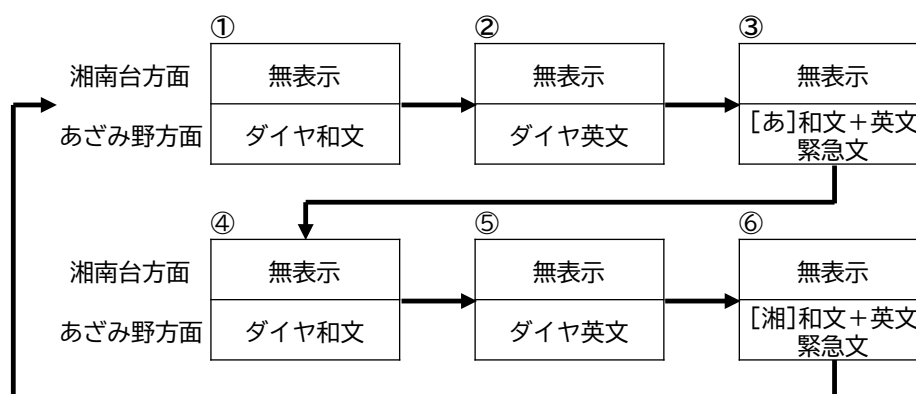
a 両方面ダイヤ有り



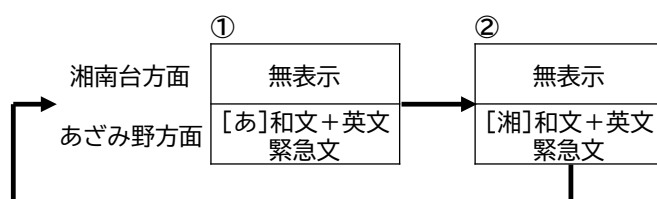
b 湘南台方面ダイヤ有り（あざみ野ダイヤ無し）



c あざみ野方面ダイヤ有り（湘南台ダイヤ無し）



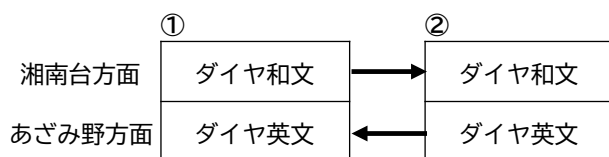
d 両方面ダイヤ無し



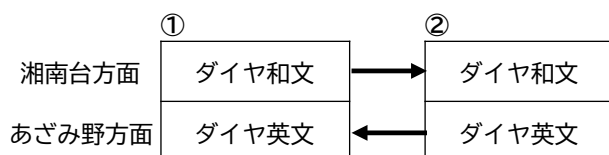
オ 他社緊急案内のみ表示フロー

- (ア) 湘南台方面他社緊急案内設定 o r あざみ野方面他社緊急案内設定
他社緊急文は表示しません。

a 湘南台方面

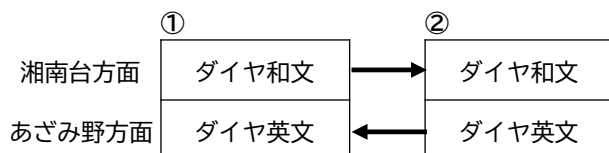


b あざみ野方面



(イ) 湘南台方面 and あざみ野方面他社緊急案内設定
他社緊急文は表示しません。

a 両方面ダイヤデータ有り

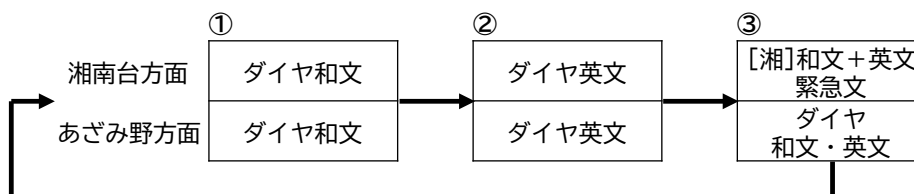


カ 自社緊急案内と他社緊急案内表示フロー

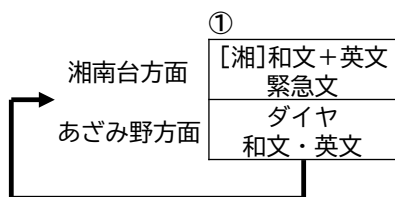
(ア) 自社：湘南台方面、他社：あざみ野方面

※ 自社緊急のみが、該当方面に緊急文が表示されます。

a 湘南台方面ダイヤ有り



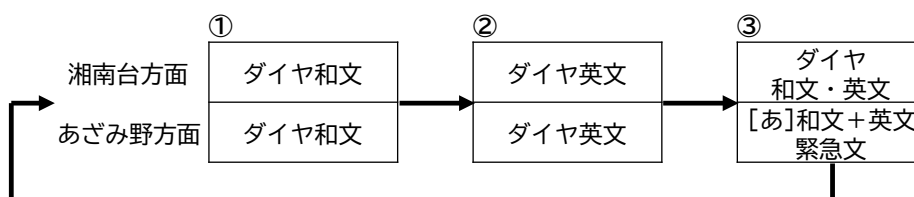
b 湘南台方面ダイヤ無し



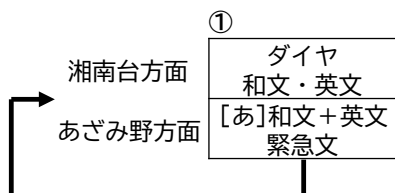
(イ) 自社：あざみ野方面、他社：湘南台方面

※ 自社緊急のみが、該当方面に緊急文が表示されます。

a あざみ野方面ダイヤ有り



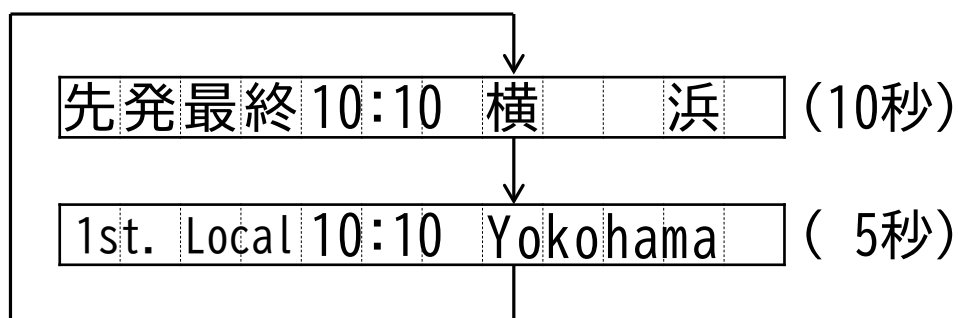
b あざみ野方面ダイヤ無し



2 各段の表示機能

(1) 先発表示段の表示

ア 「先発列車案内」を、和文・英文で交互表示します。



(2) 次発表示段の表示内容

ア 次発表示段には、以下の表示をします。

次発列車案内（和文・英文の交互表示）

緊急案内（自社ダイヤなし、自社ダイヤあり、他社緊急）

当駅接近案内

一般案内

遅延案内

停車駅案内

先着案内

乗換案内

ダイヤなし固定文章

イ 表示内容が重なった場合の表示方法を表1に示します。

表1 表示内容が重なった場合の表示方法（ホーム）

	操作 端末	PTC	操作 端末		PTC			操作 端末	PTC	操作 端末	PTC	当 駅 接 近	次発表示段の表示内容
	ダイヤ無 固定	列車情 報	一般案 内	他緊急	乗換	先着	停車 駅	自社緊急 ダイヤ有 り	遅延	自社緊急 ダイヤ無 し	全消 去		
1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	当駅接近
2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●		全消去
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●			自社緊急案内ダイヤ無し
4	-	A	-	-	-	-	-	A	A				遅延表示＋自社緊急ダイヤ有＋ダイヤ
5	-	B	-	-	B	B	B						停車駅案内＋先着案内＋乗換案内＋ダイヤ＊1
6	-	C	-	C									他社緊急＋ダイヤ
7	-	D	D										一般案内＋ダイヤ
8	-	●											ダイヤ
9	●												ダイヤ無固定

【凡例】

- : don't care （空欄）：条件なし （アルファベット）：同一グループ ●：条件あり

※ 自社緊急ダイヤ有、自社緊急ダイヤ無、他社緊急は同時選択不可

*1 最大2文章まで表示します。3条件が同時に成立した場合は以下の優先度に従います。

停車駅案内>先着案内>乗換案内

当駅接近： 当駅接近表示を当駅接近条件ONの間表示します。

ダイヤ： 次発ダイヤを和文（10秒）／英文（5秒）の交互で合計15秒間表示します。

緊急案内： 操作端末の緊急案内を固定表示または、流し切りで表示します。

表2 表示内容が重なった場合の表示方法（コンコース）

	操作 端末	PTC	操作 端末		PTC			操作 端末	PTC	操作 端末	PTC	当 駅 接 近	次発表示段の表示内容
	ダイヤ無固定	列車情報	一般案内	他緊急	乗換	先着	停車駅	自社緊急 ダイヤ有り	遅延	自社緊急 ダイヤ無し	全消去		
1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	当駅接近
2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●		全消去
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●			自社緊急案内ダイヤ無し
4	-	A	-	-	-	-	-	A	A				遅延表示＋自社緊急ダイヤ有＋ダイヤ
5	-	B	-	-	B	B	B						停車駅案内＋先着案内＋乗換案内＋ダイヤ * 1
6	-	C	-	C									他社緊急＋ダイヤ
7	-	D	D										一般案内＋ダイヤ
8	-	●											ダイヤ
9	●												ダイヤ無固定

※自社緊急ダイヤ有、自社緊急ダイヤ無、他社緊急は同時選択不可

* 1 本項目はコンコース表示適用外

当駅接近： 当駅接近表示を当駅接近条件ONの間表示します。

ダイヤ： 次発ダイヤを和文（10秒）／英文（5秒）の交互で合計15秒間表示します。

両方面コンコースの案内文章は自駅緊急ダイヤなし、自駅緊急ダイヤありのみ表示をします。

緊急案内： 操作端末の緊急案内を固定表示または、流し切りで表示します。

(3) 先発表示段と次発表示段の表示内容

ア 先発が各駅列車、次発が最終列車で、操作端末、またはP T Cから案内文章が指示された場合



*文章表示について

- ・文字数がユニット数以下のとき
1サイクル固定表示します。その後、また①から表示をします。
- ・文字数がユニット数より多いとき
文章を流しきるまで1段目は、和文（10秒）／英文（5秒）の表示をします。
流しきり表示が終わると、また①から表示を行います。
- ・複数文章が設定されている場合は、6.2.2項の優先度に従います。

特記事項：列車案内の和文・英文交互表示時に、流し文章を流し切った場合の動作

表示器タイプ	列車案内	動作
既設表示器 (2014年度まで)	和文	和文表示の残り秒数を和文列車案内表示 英語を表示せずに、サイクルの最初から表示開始
	英文	英文表示の残り秒数を英語列車案内表示 サイクルの最初から表示開始
新設表示器 (2015年度以降)	和文	和文表示の残り秒数を和文列車案内表示 英語を表示後、サイクルの最初から表示開始
	英文	英文表示の残り秒数を英語列車案内表示 サイクルの最初から表示開始

3 列車案内表示

(1) 行先の表示

ア 表示データで「快速」が指定された時、「快速」を表示します。

イ 「快速」の英文表示は「Rapid」とします。

他の営業列車も同様に和英の交互表示をします。

ウ 和文の表示レイアウトを以下に示します。

先	発	快	速	10:10	新	横	浜
---	---	---	---	-------	---	---	---

エ 英文の表示レイアウトを以下に示します。

1st.	Rapid	10:10	Shin-Yokohama
------	-------	-------	---------------

(2) 表示の優先順位

ア 種別より最終表示を優先します。

(3) 発車順序と発車時刻の表示

ア 表示する列車情報がない場合は、発車順序は表示しません。

イ 発車時刻は以下の範囲で表示します。

「ダイヤ時刻」4時00分から23時59分までは「4:00」から「23:59」で表示

「ダイヤ時刻」24時00分から27時59分までは「0:00」から「3:59」で表示

(4) 列車接近表示

ア 表示タイミング（当駅接近表示）

P T Cから番線別「当駅接近情報」が入力された時、当該番線に「当駅接近案内」を表示します。「当駅接近案内」表示は、「当駅接近情報」が入力ありで表示開始し、「当駅接近情報」入力なしで表示終了します。

P T Cから「当駅接近情報」が入力された時点の先発列車の種別によって停車／通過ごとの当駅接近表示をします。

列車種別	接近表示
通過	電車が通過します
停車	電車がきます
判断不可	電車がきます

島ホームの両側ののりばに「当駅接近情報」が入力された場合、下記の表示をします。

n 番線列車種別	n + 1 番線列車種別	接近表示
通過	通過	n ・ n + 1 番線を電車が通過します
停車	停車	n ・ n + 1 番線に電車がきます
通過	停車	n ・ n + 1 番線に電車がきます
停車	通過	n ・ n + 1 番線に電車がきます

以下に、「当駅接近案内」の表示レイアウトを示します。

【停車列車】

		電	車	が	き	ま	す		
--	--	---	---	---	---	---	---	--	--

(赤点滅)

		1	番	線	に	電	車	が	き	ま	す		
--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--

(赤点滅)

		1	・	2	番	線	電	車	が	き	ま	す		
--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	--

(赤点滅)

【通過列車】

	電車が通過します	
--	----------	--

(赤点減)

1 番線を電車が通過します

(赤点減)

1・2 番線を電車が通過します

(赤点減)

イ 連動装置が接続された表示器（あざみ野、湘南台）

連動装置からの当駅接近情報と P T C の当駅接近情報との、どちらか一方、または両方の接近条件入力により「当駅接近案内」を表示します。

ウ 新羽駅の接近表示制御

P T C 正常の場合、P T C の当駅接近情報により「当駅接近案内」を表示します。

P T C 異常の場合、連動装置からの当駅接近情報により「当駅接近案内」を表示します。

本接近表示制御は全番線共通とします。

新羽駅の当駅接近は 2 段目に以下の表示を行います。

この際、矢印による番線案内は行いません。

『n 番線に電車がきます』

※n には番線番号の 1～4 が入ります。

『n・n+1 番線電車がきます』

※n には番線番号の 1～3、n+1 には番線番号の 2～4 が入ります。

例) 2 番線の当駅接近表示中に 1 番線の当駅接近が発生した場合の表示。

①『2 番線に電車がきます』

↓

②『1・2 番線電車がきます』

(5) 一般案内表示

ア 操作端末から表示器に一般案内表示を指示します。

イ 一般案内は表示器の 2 段目に表示されます。

ウ 以下のときは、一般案内表示をしません。

「当駅接近案内」表示中

「緊急案内」表示中

「遅延案内」表示中

「停車駅案内」表示中

「先着案内」表示中

「乗換案内」表示中

イ 中間駅は各方面毎の先発列車を対象とします。

※非営業列車は対象外とします。

ウ 端末駅は各番線（のりば）毎の先発列車を対象とします。

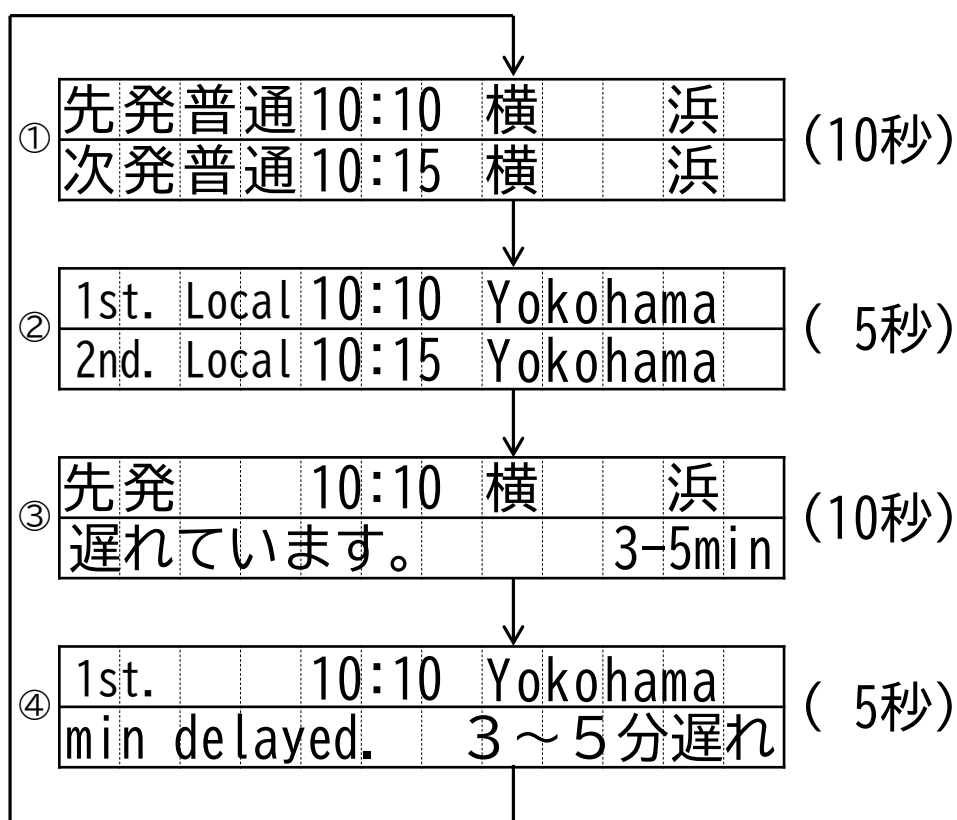
※非営業列車は対象外とします。

エ 遅延表示の文章は全駅共通とします。（駅個別ではありません。）

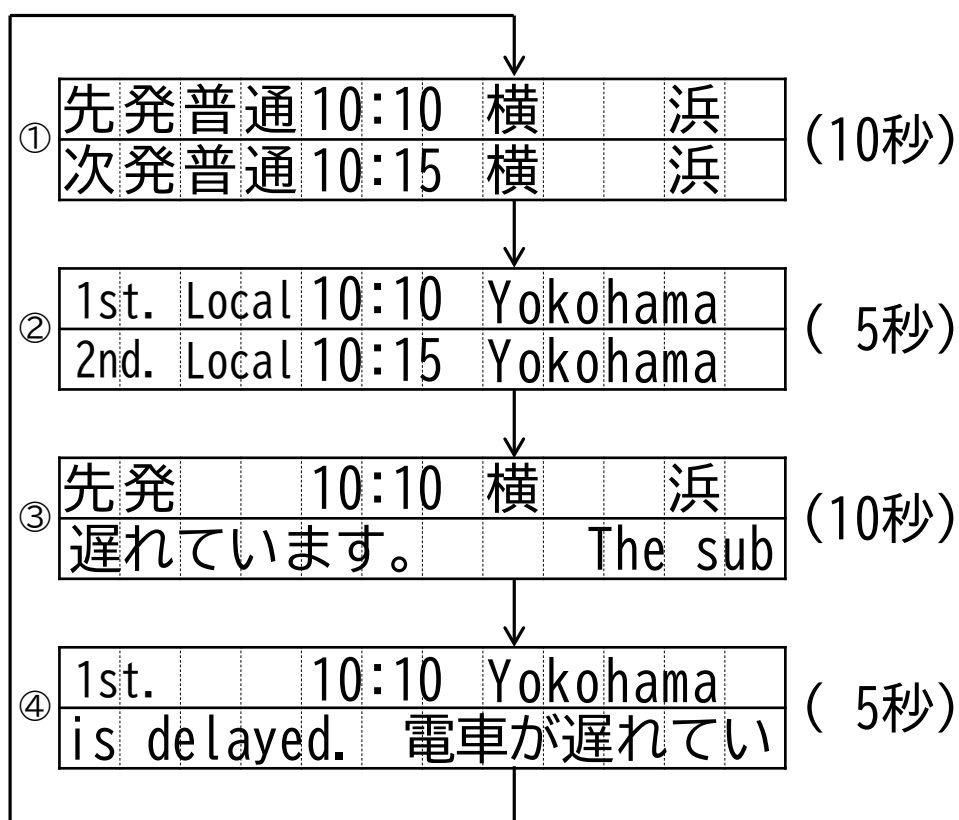
(10) 遅延表示内容

ア 先発列車に遅延が発生した場合の表示フローを以下に示します。

【遅延時間が3分以上5分未満の場合】



【遅延時間が99分以上の場合】



イ 次発エリアに表示する遅延文言色はデフォルト赤色表示とし、変更可能とします。

ウ 遅延対象列車の表示フォントについては、通常通りの表示色とします。

エ 遅延対象列車においても発時刻表示をします。

オ 遅延表示文言の分数については「表2. 2 遅延時分の精度」単位で自動可変し、分数の前後に任意で編集可能な文章を付加できることとします。（下線部分が対象となります。）文言の種類は以下の2種類とします。

(ア) 99分未満の遅延

和文： *～** 分遅れています

英文： *～** min delayed.

表2. 2で定義している設定グループと現在の遅延時分とを比較し自動可変します。

※和文の場合1桁は全角、2桁は半角表示、英文の場合はすべて半角表示とします。

(イ) 99分以上の遅延

和文：電車が遅れています。

英文：The subway schedule is delayed.

カ 表示上段の先発ダイヤ表示は和文10秒、英文5秒の交互表示とし、下段の遅延表示は和文+英文が繋げて表示します。繋げた文章が、表示器文字数以上の場合は流し表示とします。

分数設定グループ
3分以上～ 5分未満
5分以上～10分未満
10分以上～15分未満
15分以上～20分未満
以降5分刻み
85分以上～90分未満
90分以上～95分未満
95分以上～99分未満
99分以上

表6. 3. 9 遅延分数の精度

(11) 遅延表示の消去タイミング

P T C装置から受信する遅延表示対象の列車情報において、遅延時分が3分未満になったときに消去します。

※分数の設定は変更可能とします。

※遅延ビットのON/OFFは判定条件に使用しません。

(12) 遅延文言の案内表示操作端末設定方法

ア 操作端末の既存機能である文章エディタを使って文章を編集します。

また遅延分数の精度の変更はパラメータファイルの書き換えにより行なうこととします。

イ パラメータファイルの更新は案内表示操作端末から行なえることとします。

(13) 停車駅案内文章の表示

ア 先発列車の種別が普通、各駅停車、臨時以外の場合、P T C装置から受信する表示データの先発停車駅ビットを元に、ホーム表示器に停車駅案内文章を表示します。

※コンコースには表示しません。

イ 表示する文章は制御装置で編集して表示をします。

※文章内容は例を参照

ウ 終端駅の場合、または、始発駅が当駅である場合は、すべての停車駅を案内します。自駅を含まず、3駅以上停車駅が連続する場合はまとめて表示をします。

なお、始発駅が当駅であることの判定は、当駅から発車する列車の逆方面に、先発停車駅ビットがないことで判断します。

エ 中間駅の場合は次の停車駅を案内します。但し、次の停車駅から2駅以上停車駅が連続する場合は停車駅をまとめて表示します。

オ 行先の前駅は停車駅表示を表示しません。（例：中川駅であざみ野が行先）

【停車駅案内表示例】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
	湘南台	下飯田	立場	中田	踊場	戸塚	舞岡	下永谷	上永谷	港南中央	上大岡	弘明寺	蒔田	吉野町	阪東橋	伊勢佐木長者町	関内	桜木町	高島町	横浜	三ツ沢下町	三ツ沢上町	片倉町	岸根公園	新横浜	北新横浜	新羽	仲町台	センター南	センター北	中川	あざみ野	
A	○					○			○								○				○				○		○						○
B	○	○	○	○					○								○				○				○		○	○	○	○	○	○	○
C	○	○				○			○								○				○				○		○	○	○	○			○

※ ○は、PTCから送信される先発列車停車駅ビットがONであることを示す

(ア) 湘南台駅（終端駅）上り方面列車（上記表参照の停車パターン）

- A) 停車駅は戸塚、上永谷、関内、横浜、新横浜、新羽、あざみ野です。
- B) 停車駅は下飯田～中田、上永谷、関内、横浜、新横浜、新羽～センター北、あざみ野です。
- C) 停車駅は下飯田、戸塚、上永谷、関内、横浜、新横浜、新羽～センター南、あざみ野です。

(イ) 新羽駅（中間駅）上り方面列車（上記表参照の停車パターン）

- A) 次の停車駅はあざみ野です。
- B) センター北まで各駅に停車します。
- C) センター南まで各駅に停車します。

※下線部文章はビットごとに可変とし橙表示とする。その他の文章は緑表示とする。

「、」は緑表示、「～」は橙表示とする。

(ウ) 下飯田駅（中間駅）下り方面列車（上記表参照の停車パターン）

- B) C) 停車駅案内表示なし。

(14) 先着案内文章の表示

ア PTCから受信する表示データの先着案内ビットを元に、ホーム表示器に先着案内文章を表示します。※コンコースには表示しません。

イ 表示する文章は制御装置で編集して表示をします。

※文章内容は例を参照

【先着案内文章表示例】

(ア) 先着駅案内コード新羽を受信

新羽まで先に到着します。

(イ) 先着駅案内コードあざみ野を受信

あざみ野まで先に到着します。

※ 下線部文章はビットごとに可変とし橙表示とする。その他の文章は緑表示とする。

ウ 終端駅の特殊処理（湘南台駅、あざみ野駅）

※ 先発列車のみ先着案内を表示します。

次発以降の列車は、P T Cから受信する表示データの先着案内ビットを無視します。

なお、先発列車が非営業列車（P T C通信 I F 装置インタフェース仕様の列車種別で定義）であった場合、以下の通りとします。

列車種別				使用する 先着案内ビット
先発	次発	次々発	3次発	
営業	非営業／営業	非営業／営業	非営業／営業	先発
非営業	営業	非営業／営業	非営業／営業	次発
非営業	非営業	営業	非営業／営業	次々発
非営業	非営業	非営業	営業	なし ＊1

＊1 付帯案内は番線ごとの先発列車のみであるため、3次発以降は使用する情報がありません。

(15) 乗換案内文章の表示

ア P T Cから受信する表示データの乗換案内ビット（種類、行先、種別、乗換駅）を元に、ホーム表示器に乗換案内文章を表示します。

※コンコースには表示しません。

イ 乗換案内種類による有効とするビットは下記の通りです。

		行先	種別	乗換駅
種類	なし	—	—	—
	乗換	—	○	○
	車交	○	○	○
	通過	—	○	○

※種類がなしの場合乗換案内は表示しない。

ウ 表示する文章は制御装置で編集して表示をします。

※文章内容は例を参照

【乗換案内文章表示例】

(ア)種類：乗換、行先：あざみ野、種別：快速、乗換駅：上永谷
上永谷で快速に接続します。

(イ)種類：車交、行先：湘南台、種別：臨時、乗換駅：新羽
新羽で臨時湘南台行きに接続します。

(ウ)種類：通過、行先：あざみ野、種別：快速、乗換駅：上永谷
上永谷で快速の通過待ちをします。※行先は無効とする。

※下線部文章はビットごとに可変とし橙表示とする。その他の文章は緑表示とする。

(16) ダイヤ無固定文章の表示

ア 表示器2段目、または1段目、2段目に表示するデータが無い場合、ダイヤ無固定文章を表示します。

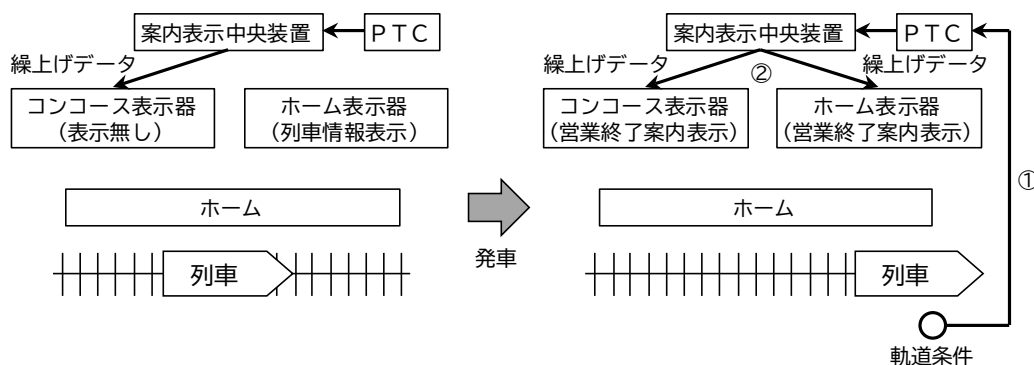
イ 表示する文章は操作端末から変更可能とします。(1文章設定可能)

ウ 文章番号は固定とします。

(17) 営業終了表示タイミング

ア PTCからのコンコース表示器繰上げデータを無視してホーム表示器の繰上げデータを受信したタイミングでコンコース表示器の表示を繰り上げます。

(2分在線→発車)



(18) 終了後の表示

ア 方面別に終車案内を表示します。

イ 全方面終了時は、営業終了の案内を表示します。

ウ 上記表示の判断は、PTCからのダイヤ情報の有無で行うため、終電間近に装置再立上げがあった場合、終電表示をしない場合があります。

エ 営業終了の案内を以下のタイミングで消去します。

- ・ PTCから営業列車のダイヤを受信した直後です。
- ・ PTCから全消去を受信した直後です。
- ・ 表示消去設定時刻(1:45、2:00、2:30、3:00、4:30)になった直後です。

4 遅延時分変化時の表示更新について

(1) 先発列車の遅延時分、0～2分の変動は表示データの更新判定には含めない。

※ダイヤ情報【行先、発時刻等】の変化は更新判定に含める。

(2) 遅延時分の変動は、グループ単位(3～5分、5分～10分、10分～15分・・・)に更新判定を行い、同グループの場合は表示更新を行なわない。

(3) 優先度の異なる文章発生時には、即時更新とする。

例) スケジュール案内表示中、遅延(3分以上)が発生した場合は即時遅延文章に切り替わる。

(4) 同一優先度の文章変更時には、以下の動作とする。

ア 固定文章の場合、即時更新とする。

例) 遅延文章「3分～5分遅れています」⇒「5分～10分遅れています」

イ 流し文章の場合、流しきり後更新とする。

例) 遅延文章「電車が遅れています。」⇒「95分～99分遅れています」

※ 緊急文章、スケジュール文章の場合は、同一文章番号内容の変更時のみ流しきり後更新となる。

(5) 緊急文章表示中には、先発列車の遅延時分の変化、は更新対象外とする。

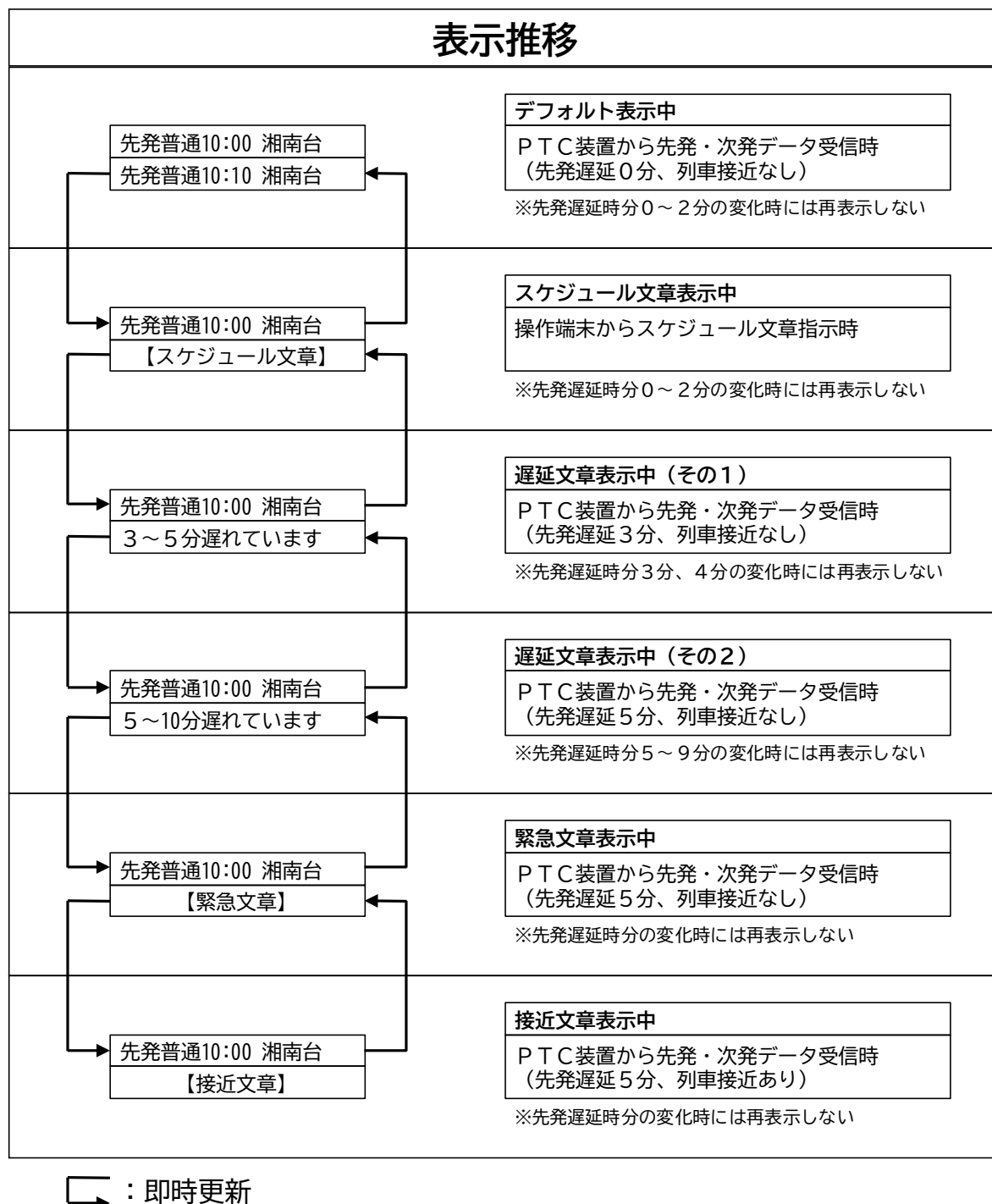


図6. 6. 3 表示フロー